

奈弓連だより

通巻 236号

令和3年10月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 中西省五

連絡先：henshu@narakyudo.jp

第45回近畿地区弓道選手権大会

男子団体2位、女子団体が3位入賞

10月10日(日)、兵庫県立弓道場(明石市)において標題の大会が開催され、男子団体として2位入賞の結果を得ることが出来ました。

今年は2年ぶりの大会の上、新型コロナウイルス感染症対策のため例年とは異なり、各県から1チームしか出場することが出来ず、6月6日に県予選会が行われ、奈良県男子団体代表として出場させて頂くことになりました。

優勝は出来なかったものの準優勝という結果を残せ、入賞出来た喜びと結果を残せた安堵に似た気持ちを感じています。個人的には、今回の大会は各府県合計6チームのみの試合であることから、例年に比べ入賞の可能性は高いと思っていました。しかし会場に着くや、各府県とも国体選手、元国体選手ばかりで、高的中を予想させる等、全国レベルの大会に出たことのない私にとってはとても重圧のかかるものとなりました。しかし、同じチームの今西選手と新子選手から「結果を気にせず、楽しんだらいいですよ」といった優しくも、どこことなくプレッシャーのかかる言葉と彼ら持ち前の雰囲気と人柄に支えられ、緊張感で浮き足立ちそうになりながらも、なんとか本番に10中を出し全体の2位で決勝を終えました。その後大阪、兵庫との同中競射の結果、全員が的中し2位で無事競技を終えました。



男子チーム 新子・今西・山城選手

女子チーム 小山・平井・奥戸選手

今回、兵庫県立弓道場での決勝や県での予選会を通じ、緊張した場での一発勝負の難しさを感じる一方、普段

の生活では味わえないような緊張感の中で弓を引ること、この様な緊張感の中でチームのメンバーと共に助け合いながら弓を引けたこと等、非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。

最後になりましたが、応援に来ていただいた西中会長、阪中副会長、藤岡副会長に厚く御礼を申し上げるとともに、女子団体3位入賞を果たした郡山支部の皆様にお祝い申し上げます。ありがとうございました。

(五條支部 山城庸平)

天皇盃第72回全日本男子弓道選手権大会

強く激しく鋭く！挑戦は続く

9月19日(日)、緊急事態宣言が発令中の東京、明治神宮の全日本弓道連盟中央道場で、天皇盃第72回全日本男子弓道選手権大会／皇后盃第54回全日本女子弓道選手権大会が開催されました。

台風14号も日本列島に近付き、その後も進路を東に取っておりまして。横殴りの雨でも良いように、弓と矢筒はビニールのカバーに包んで準備万端。新幹線は、大きな荷物や長尺のものは事前に申請が必要で、各車両の一番後ろの席を確保する必要があります。私が使用するのは4寸伸の弓なので、3列シートの方で席の予約をしました。

明治神宮へは送付されてきたIDカードを提示しないと入れません。その他の措置では、健康観察票が配布され、全選手が2週間前から朝夕の体温を検温し、記録。大会後も2週間記録し続けて提出します。それから、大会参加のための移動開始を起算として72時間以内のPCR検査の陰性証明を受け付け時に提示が必須です。

感染拡大防止措置など、例年とはかなり様相が違いますが、このご時世なので致し方ないことだと思いました。また、大会運営にはかなり大きな負担が掛かったと思いますが、限られた範囲内で最大限のお気遣いなど、大会に集中できる環境を用意していただいた主管の東京都弓道連盟の役員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

予選は続けて一手を2回引くことになるので、1回目が良いとしても悪くても2回目に心が乱れないように「無心」に引けるように準備。さて1回目、緊張すると大きく引きすぎてしまうので、引き過ぎないように注意しながら1本目、失敗。会までは流れが良かったのですが、どこかで流れが止まります。2本目、流れを途切れさせないように強い生きた矢を出したい。結果は失中。しかし、会はやや浅かったものの流れは良かったので、これを予選2回目に繋げようと思います。

控えて自己分析、反省、イメージの修正を行い2回目に強く意識するテーマを決めます。

いざ2回目、1本目はイメージ通りに射を運べ、離れでもそこそこの弦音が。しかし、矢は無情にも枠外。ここで予選落ち確定。2本目、まだ自分の矢が出せていない。自己紹介出来ていないので、「いつも通りの強い矢を」の気持ちで射を運行。結果は凝り無く柔らかに離れた感触でした。

強く激しく鋭く！と思っていた内容とは違いましたが、今回の挑戦はこれでおしまい。来年以降に向けて、直ぐに再出発です。予選落ちの選手は退館、帰宅するようにとのことだったので、気持ちを切り替えながら帰ってきました。

久しぶりの天皇盃、楽しんでできました。ありがとうございました。
(郡山支部 藤岡順)

第33回奈良市弓道近似的選手権大会 兼 第12回会長杯争奪戦

会長盃は男子・中井選手、女子・岡本(蔦)選手に

9月12日(日)、ロート奈良弓道場において標記大会を開催しました。

昨年は新型コロナウイルスのため中止しましたが、今年は、体温測定、行射以外はマスク着用など新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら行いました。

高校生の部活停止や当日の欠席者も多く、参加者は、無段の部0名、初・二段の部7名、三・四・五段の部21名、称号者の部10名と合計38名での大会となりました。

競技は、3人立ち2射場、各自8射で行いました。時間短縮のため、同中競射の代わりにじゃんけんで順位を決めることにしました。遊び心があってもよいのではとお許しください。しかし、会長杯は、そういうわけにはいかないのです。男子は6中2名、女子は4中

3名で競射を行いました。

皆さんの協力もあり、お昼過ぎには無事終了することができました。

会長杯男子の部	中井達男
会長杯女子の部	岡本蔦子
初・二段の部	1位 土井美裕子(奈女大) 2位 甘 乾誼(奈女大) 3位 真鍋里菜(奈女大)
三・四・五段の部	1位 徳田四郎 2位 桐山淳志 3位 中川 亨
称号者の部	1位 中井達男 2位 岡本蔦子 3位 高柳詩子



(奈良支部 深田紀美子)

奈良市遠的選手権大会

女子個人は射詰競射の結果、西田選手が1位に

10月3日(日)、雲一つない青空のもと、ロートフィールド奈良の多目的広場にて標記大会を開催しました。9チーム27名の参加でした。団体は男女混合可とし、各自8射・計24射で競いました。久しぶりの遠的大会でもあり、密を避けられるということもあり、皆のびのびと引くことができました。



大空の下でのびのびと

団体の2位・3位決定戦は3チームでの射詰を行い、男子個人2位・3位は2名での遠近による決定戦となりました。女子個人1位・2位は、2名で射詰を行いました。2人とも3本目までの中が続き、4本目で勝敗が決しました。応援している者にとっても、見ごたえのある決勝戦でした。

とても暑い日でしたが、準備・片付けも皆で協力して行い、充実した大会になりました。

- 団体** 1位 (栗栖・中西・上田) 11中
2位 (土谷・長谷部・揚田) 8中
3位 (平林・坂本・藤森) 8中
- 男子個人** 1位 栗栖久夫 6中
2位 中井達男 4中
3位 中山誠一郎 4中
- 女子個人** 1位 西田ゆり 6中
2位 藤森康恵 6中
3位 揚田よう子 4中



入賞した皆さん
(奈良支部 深田紀美子)

奈良県の支部、団体紹介

奈良県立医科大学体育会弓道部

主将 石原立也

こんにちは！奈良県立医科大学体育会弓道部です。現在部員は、3回生13人・4回生7人・5回生6人・6回生5人の計31人です。学内道場を練習場所として、関西学連・奈弓連・医歯薬系の試合や審査などに向けて活動を行なっています。しかし2020年3月から新型コロナウイルスの蔓延の影響を受け、部活動が完全に停止状態となってしまいました。県内唯一の医学部ということで世間の目も厳しく、他大学さんと比べても非常に厳しい措置が続いていました。もちろん勧誘を行うことができるはずもなく、新入部員は未だゼロ。このまま緊急事態宣言が続けばもはや奈良医大弓道部は解散か…と観念していた所、この10月から晴れて部活動の再開となりました！

この文を書いている現在はまだ部活動再開して1週間ほどしか経っておらず、まだまだ課題が山積みです。まずは1年半もほったらかしにしていた部室の整備から…さらには活動に制限がある上に勧誘もまだであ

り、どうやって運営していくのかなど、コロナ前のように部活動を行うのは難しいのが現状です。けれども引退された先輩も含め部員達は積極的に部活動へと参加し、限られた練習時間の中でも力を伸ばそうと頑張っています。また部活動を行うことができなかった期間でも各々自主的に練習しており、中には国体に出場する部員もいたりそれぞれ力の維持に努めていたようで、とても心強いです！



部活動再開後の練習風景

これから先コロナがどうなっていくのかは見通しが立たない中ですが、部活動が行うことのできるこの時間を十分に使い頑張っていきます！今後とも奈良県立医科大学体育会弓道部をよろしくお祈いします。

.....
《 追矢にご注意ください 》



カーボン矢 ジュラ矢 破損の危険があります。赤旗(合図)を出してひとまずその矢だけは取りましょう。

編 | 集 | 後 | 記

近畿大会、男女入賞おめでとうございます！緊急事態宣言が解除されて半月。今までなら感染者増加の時期ですが、ワクチン効果なのか感染者数も減少を続け、大会や試合も制限下で行われています。急に寒くなりましたね。引く前は軽く運動し、体を温めて怪我のないようにしましょう。(編集担当 松澤)